

## はしか

成人に重症化の恐れ/ 2回の予防接種受けて

西予市・山下小児科 山下 万浩

“恋ははしかと同じで、誰でも一度はかかる”。ジェロームという人の言葉だそうです。この言葉ははしかがいかにもごくありふれた身近なものだという親近感を抱かせます。しかし、逆に、誰でもかかるはしかの強い感染力と発症率の高さをも言い得ています。

では、はしか、正式に呼べば麻疹(ましん)とはどのような病気なのでしょう。主な症状として咳(せき)、鼻水、目やに、発疹(ほっしん)などを伴う三十八~四十度にも及ぶ熱が一週間余り続きます。文献によって多少の差はありますが、麻疹にかかると40%くらいが入院し、死亡率は千人に一~二人。家族の誰かがかかれば、麻疹に対する免疫を持っていないほかの家族には90%以上の確率でうつるといわれています。子供ばかりか、成人でも免疫がなければかかってしまい、子供以上に重症化しかねません。この季節話題になるインフルエンザよりはるかに恐ろしい病気です。インフルエンザなら昨今では比較的安全性の高い治療薬もありますが、麻疹に対してはそのようなものはありません。唯一有効である血液製剤も麻疹の人と接触して初期に使用しないと十分な効果がありません。

このように相当恐ろしい病気でありながら、半世紀くらい前までは誰もがかかり、日本でも年間数千人にのぼる人が麻疹で死んでいました。幸い、予防接種の普及により、最近では以前のような大きな流行はなくなりました。世界的にも世界保健機関(WHO)による予防接種の推進で麻疹による死者の推計値は一九九九年の八十七万三千人から二〇一五年は三十四万五千人まで減少したそうです。

予防接種で何か大変なことが起きないかと危惧する方がいます。麻疹予防接種後に脳炎が百万人に一人未満の確率で起こるとされています。確かに百パーセント安全といえるわけではありませんが、これとて麻疹にかかった場合に脳炎になる確率が千~二千人に一人ということから考えると予防接種の方がより安全な選択です。麻疹のために命を落としたり、入院してつらい思いをした子供たちを診てきた小児科医からみれば、麻疹予防接種で起こる程度の問題は麻疹に比べればずっと安全だといえます。

また、予防接種の効果を疑問視する方もいるかと思えます。確かに、昨今大学生などで麻疹が流行し、かかった人の中には麻疹の予防接種をしていた人もいました。一回だけの接種ではこのようなことが起こる可能性は以前から指摘されていました。既に世界の多くの国では二回接種が行われており、かなりの効果を上げています。日本でもやっと二〇一六年から二回接種になっています。一歳になったときと小学校入学前に麻疹風疹混合ワクチンを必ず受けてください。

なお、今年度も含めて五年間だけは公費により無料で中学一年生と高校三年生にも接種できます。詳しくは居住地の自治体窓口や、かかりつけの小児科医にお尋ねください。

愛媛新聞「健康ファイル」

平成21年2月10日(火)掲載